

科目名	財務会計論 Financial Accounting		必修	2 単位
学期・曜日・時限	春・月・3 限	春・月・5 限	-	-
担当教員名	金 紅花	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>会計はビジネスにとって、最も基本的な素養であり言語とも言われている。 この言語を学ぶためには会計思考力を活性化するためのトレーニングが必要であり、会計の言葉を使うために財務会計の基本的な考え方を理解しなければならない。</p> <p>本講義は、細切れの単なる知識ではなく、会計を巡る広範的な世界を体系的にかつ実践的に理解し使いこなすことであり、会計情報が企業にとってどのようなことを語り、また語れないかを理解することを目的としている。</p>				
<p><講義計画></p> <p>1 週目：企業会計の本質とフレームワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：企業会計の機能、企業会計のプロセスと目的、企業会計の一般原則等について説明 <p>2 週目：資源フローの会計：経営パフォーマンスの測定と表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：売上高と売上債権、棚卸資産と売上原価、利益測定と資産評価等について説明 <p>3 週目：資源ストックの会計（1）：資産の会計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：現金預金と有価証券、有形固定資産と減価償却、無形固定資産と繰延資産等について説明 <p>4 週目：資源ストックの会計（2）：負債、持分の会計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：負債、株主資本と純資産等について説明 <p>5 週目：損益計算書（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：損益計算書の意義と基本フォーム、収益の認識と測定基準、費用の認識と測定の基準、費用と収益の対応原則等について説明 <p>6 週目：損益計算書（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：設例による損益計算書の作成・解説① <p>7 週目：損益計算書（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：設例による損益計算書の作成・解説② <p>8 週目：貸借対照表（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：貸借対照表の意義と基本フォーム、資産、負債、純資産の認識・測定・評価等について説明 <p>9 週目：貸借対照表（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：設例による損益計算書の作成・解説① <p>10 週目：貸借対照表（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：設例による損益計算書の作成・解説② <p>11 週目：キャッシュフロー計算書（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：キャッシュフロー計算書の意義とフレームワーク等について説明 <p>12 週目：キャッシュフロー計算書（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：設例による損益計算書の作成・解説① 				

<p>13 週目：キャッシュフロー計算書(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：設例による損益計算書の作成・解説② <p>14 週目：事業計画書における財務計画の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：事業計画書における売上計画、収支計画等について説明 <p>15 週目：講義全体のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：講義全体のまとめ <p>16 週目：期末試験</p>
<p><講義の進め方></p> <p>各回のテーマに関する基本概念について解説するとともに、理解度の確認ためホームワークを実施する。授業の際は、電卓を持参すること。</p>
<p><準備学習内容></p> <p>各回の講義内容の関係性が強いいため、事前に前回の講義内容を復習するのが必要である。</p>
<p><教科書及び教材></p> <p>教員が各回講義資料を作成し、配付する。</p>
<p><参考書></p> <p>「財務会計・入門 ―企業活動を描き出す会計情報とその活用法― (最新版)」 桜井久勝、須田一幸著、有斐閣アルマ</p> <p>「これから学ぶ会計学 (単行本)」 浦崎直浩、中央経済社</p> <p>「新・現代会計入門 (単行本)」 伊藤邦雄、日本経済新聞出版社</p> <p>「財務会計講義 (最新版)」 桜井久勝著、中央経済社</p> <p>「テキスト アンソニー会計学」、ロバート・アンソニー、レスリー・ブライトナー著 (西山茂監訳)、東洋経済新報社</p>
<p><成績評価方法></p> <p>欠席6回以上は成績評価しない。</p> <p>全員にプレースメントテスト (レベル判定試験) を実施する。必ず出席のこと。</p> <p>詳細の日について事務局からあらためてお知らせする。</p> <p>①プレースメントテストで、80点以上の試験結果者：</p> <p>出席および、期末試験は免除するが、実践力を養うことができるので出席することが望ましい。ただし、レポートの提出 (後日対象者のみに指示) を求める。成績評価はプレースメントテスト (80点) とレポート (20点) で行う。</p> <p>②初回のプレースメントテストで、80点未満の試験結果者：</p> <p>出席を必須とする。欠席6回以上は成績評価しない。</p> <p>評点 (100点) = 期末試験 (50点) + ホームワーク (30点) + 議論への参加 (20点)</p>
<p><履修条件> 特になし。健全な懐疑心と素直な心が肝要。</p>
<p><DVDによる視聴> 可</p>
<p><オフィスアワー> 月曜4限 (事前に必ず連絡すること)</p>
<p><その他> 講義計画は、状況により変更することがある。</p>